

## 平成 30 年度「旧渡辺家書院及び茶室」（「南山寿荘」）屋根修理工事



南東棟の外観

平成 30 年 6 月 1 日～9 月 20 日にかけて愛知県指定文化財「旧渡辺家書院及び茶室」（「南山寿荘」）の池に面して張り出している南東棟の屋根を中心に修理工事を行いました。

南東棟は旧渡辺家書院及び茶室を現在の地に移築したのち、昭和美術館設立者である後藤幸三（1881～1977 年）が自らの趣向をもって増築した部分で、傾斜した地形を活かし、床下を高く持ち上げ南へ張り出すように作られています。この度の工事では破損した瓦、変色した屋根の銅板を取り

かえ、それに伴う下地材の取替・補修を行い、樋の補修や一部外壁の修理も行いました。

本年度の修理工事は公益財団法人朝日新聞文化財団と愛知県より工事費用の助成を受けて行われました。貴重な助成金を頂戴いたしまして、厚く御礼申し上げます。

**瓦** ▶ 屋根瓦は、既存の瓦でも使用できるものを再度使用し、破損などで使用できない瓦の代わりに、既存瓦で状態の良い物から型をとったり、既製品の一部を加工したりするなどし、既存の瓦と調和する物を使用しています。また、建物を見上げた際に見える部分には既存の瓦を使用し、建物全体の他の部材との調和を保っています。

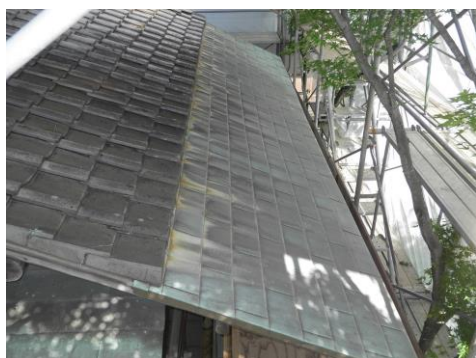


工事前

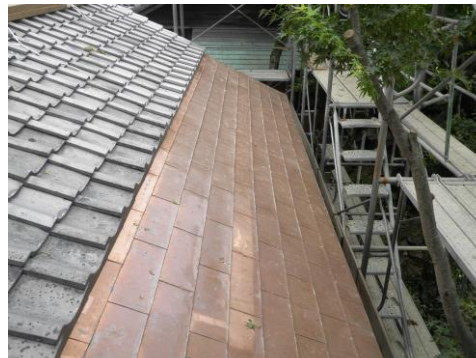


工事後

**銅板屋根** ▶ 屋根を葺いている銅板は解体によって変形し、再利用が出来ないため、新たな銅板に葺き直しをしました。



工事前



工事後

**外壁土壁** 修理前、土壁の外壁は虫による食害による損傷が見られましたが、修理後は修理前の壁と周りの壁の色味と合わせ、全体で違和感の無いよう仕上げています。



工事前



工事後

### **外観** ▶

平成 30 年度修理工事の結果、建物南東棟は、江戸時代に建立された文化財としての姿を保ちながら、今後の風雨に相当年数耐えうる屋根となりました。

今後も文化財の保全と活用のため、建物全体の屋根修理工事を進めて参ります。

